

アントレプレナーシップが地域の未来を拓く



タクトピア株式会社 代表取締役 長井悠

# 目次

- 自己紹介
- アントレプレナーシップ教育の重要性
- アントレプレナーシップとは何か
- アントレプレナーシップ教育をどのように提供するか

自分について

# 長井 悠 (ゆう)

## タクトピア株式会社 創業者・代表取締役

- 茨城県の田舎で育つ
- 東京大学→大学院
- 専門は美学藝術学（バッハを研究）
- 外資系コンサルティングファームへ就職
- 教育分野で起業3社、起業歴12年
- 娘ふたり



ハバタク  
HAVE A TAKI

教育  
共創  
研究所



# 長井悠、だいたいの歩み

## 企業の事業開発

## 自分で起業

2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021



ハバタク  
HAVE A TAKT



一般社団法人  
教育共創研究所

会社について



TAKTの精神  
人生の指揮を自ら執れ



タクトピアのMISSION：



**グローバルリーダー**への発射台 / The Launchpad for Glocal Leadership

【情報/自信をつける機会/実践力】の欠如という壁を打破し、VUCA時代のより**自由な将来選択**に寄与する





# アントレプレナーシップ教育の 重要性



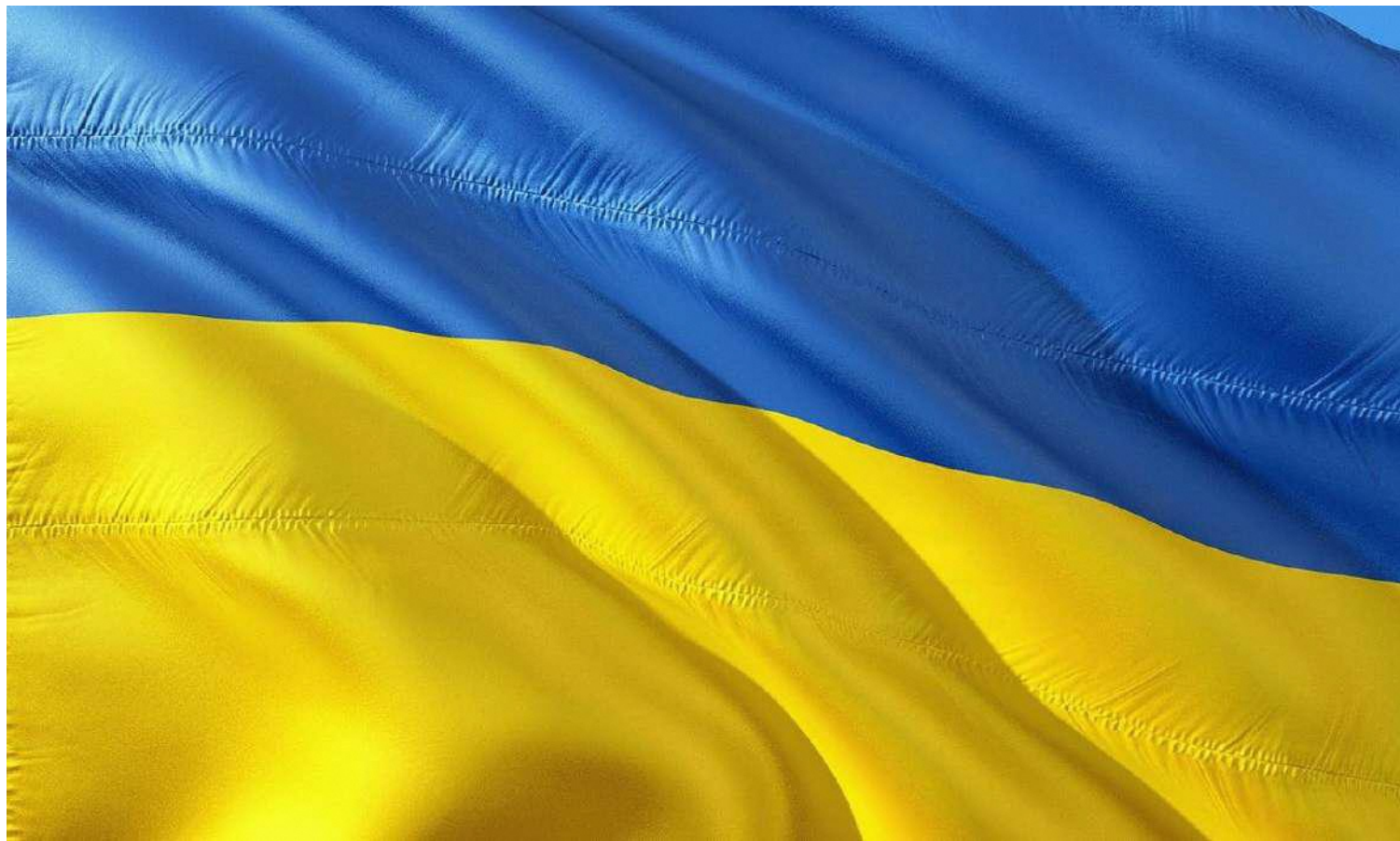
いまってどんな時代？



**COVID-19**

正解が分からない





予測困難



# 激変する仕事

2005年



2015年



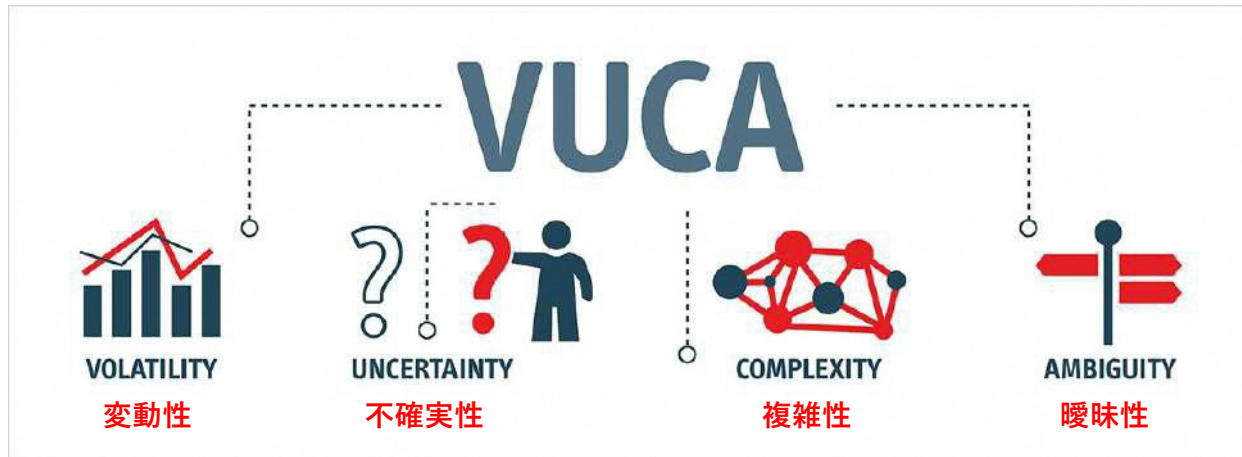
UBS(世界有数の銀行)の変化。  
デジタルオートメーションとリーマン・ショックの影響で  
多くの方が仕事を失った

変化のスピードが速い





# 21世紀のキーワード：VUCA World



<https://www.i-learning.jp/topics/column/business/vuca-era.html>



人生に  
決まった  
正解はない

No "Right" Answer



だからこそ  
TAKT  
自分の意志  
が大事

# 2030年の働き方予測

20代の80%近くが

**副業・マルチジョブを導入する時代に**



\*野村総研 未来年表より

(c) TAKTOPIA & Co.

## 2030年の働き方予測

自分って

- ・ 20代の30%近くが  
どんなことができるの？
- ・ 副業・マルチジョブを導入する時代に  
どこで、どんなことをしたいの？
- ・ どんな生き方・働き方がいいの？



自分をよく知る

世界をよく知る



考えること多すぎで大変？

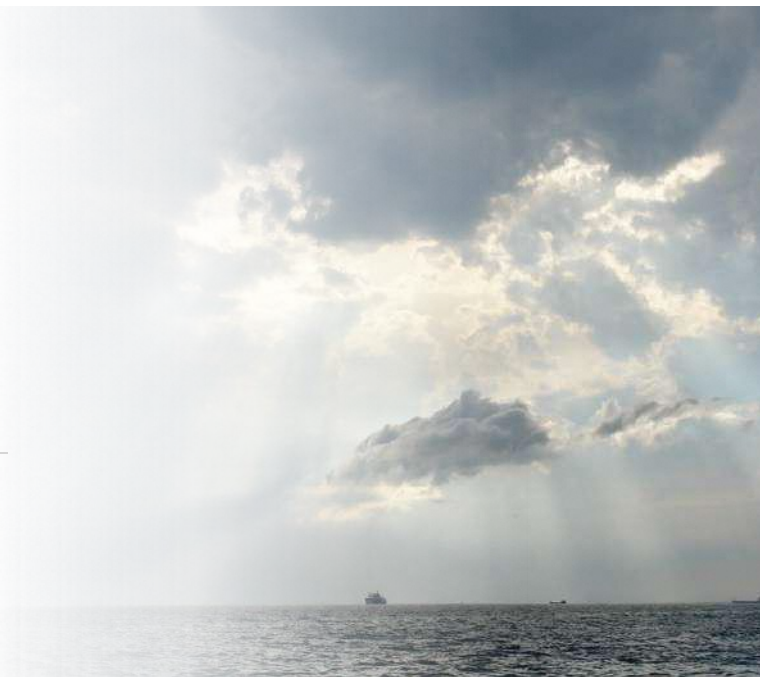


否



意志さえあれば  
可能性が拓ける  
時代

---



“アントレプレナーシップ”  
とは何か

# 育みたい人材像：グローバルリーダー

グローバルな活動



外へ  
越えていく（越境）  
異文化・異分野に触れる  
新しいものを獲得する  
議論・協働

+

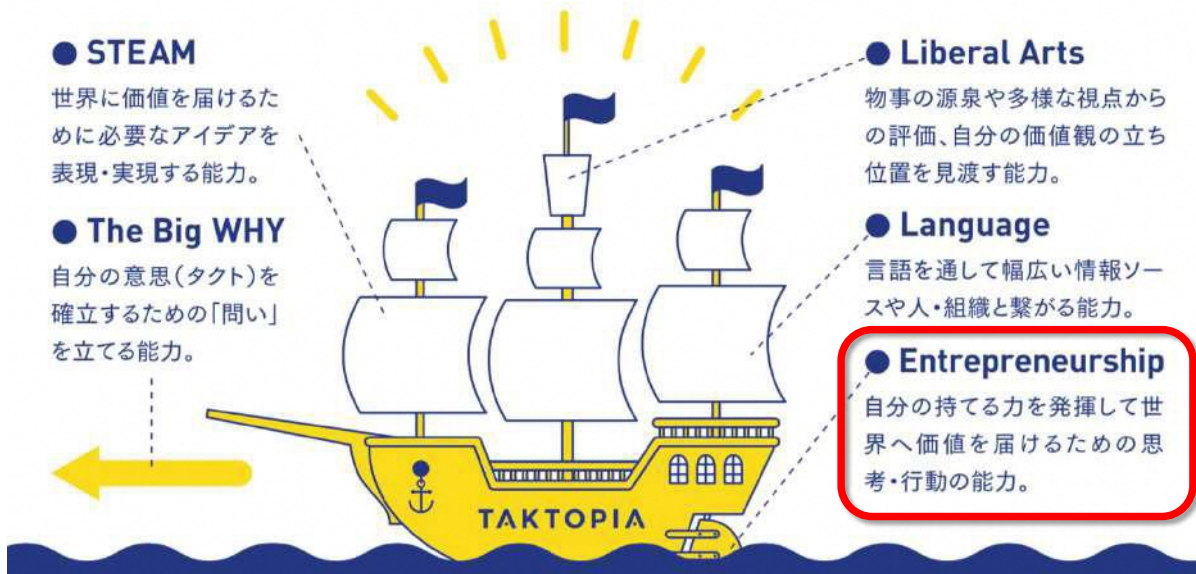
ローカルな活動



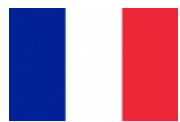
内へ  
潜っていく（内省）  
無意識に触れる  
持っているものを自覚・大切にする  
価値観づくり・意見形成

# 「グローバル・リーダーシップ」を駆動させる エンジンがアントレプレナーシップである

どんな先進的なスキルが身に付いていても、社会/世界へ価値を届けるためのマインドセットが備わっていないければ宝の持ち腐れであるという意味で、アントレプレナーシップはグローバル・リーダーシップにおけるコアの役割を果たします。



タクトピアの考える  
アントレプレナーシップ



Entre preneur



Inter taker

「間を取り持つ者」

タクトピアの考える  
アントレプレナーシップ

「間」って…？

需要と供給 問題と解決策

異分野のアイデア同士

# タクトピアの考える アントレプレナーシップ

異分野/異なる地域を橋渡しし、  
世の中を良くしようとする  
思考行動のあり方

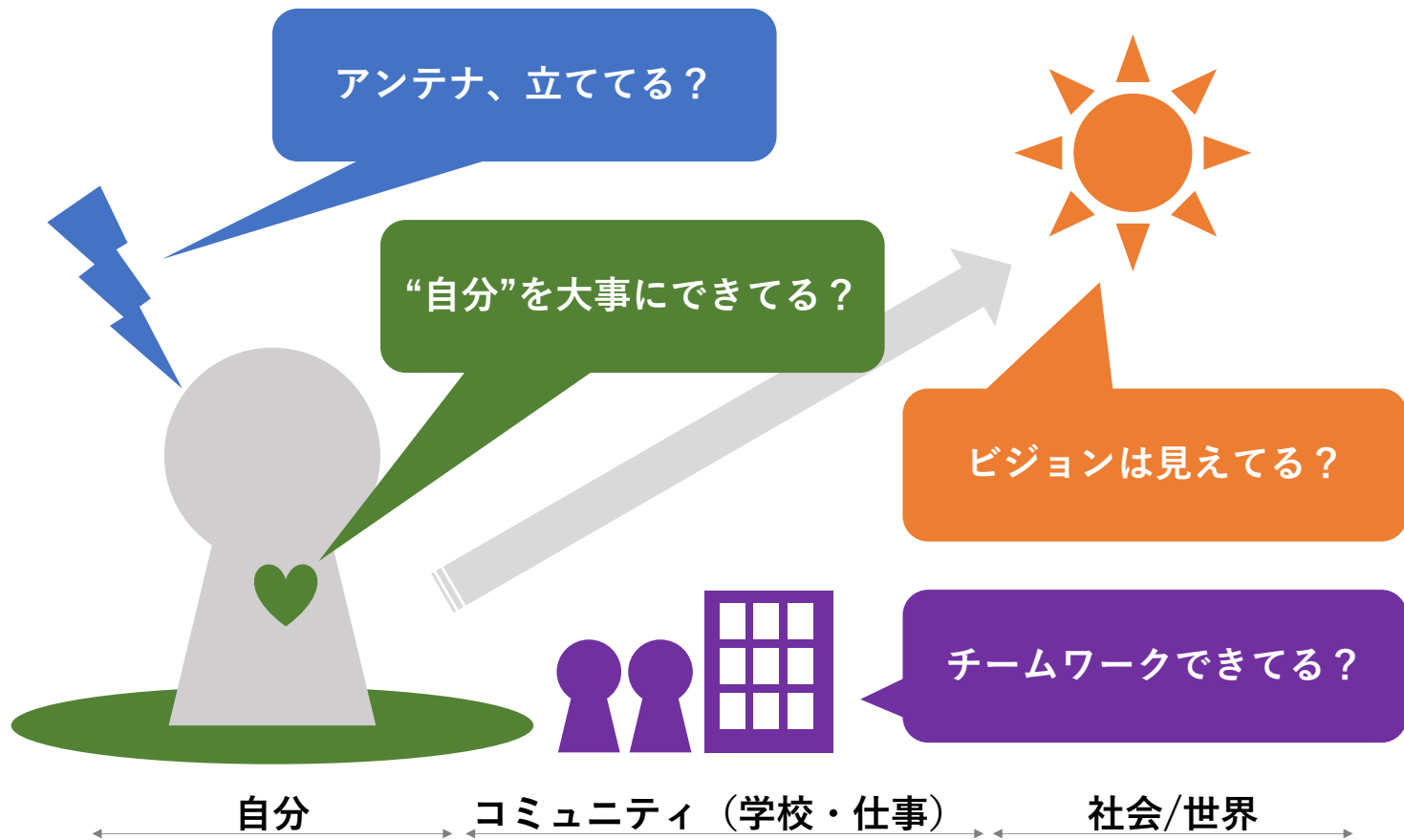


# タクトピアの考える アントレプレナーシップ

## もう少し詳しく分解すると

- 社会のニーズや変化を敏感に感じ取り
- 自分の意志や興味関心を結びつけ
- さまざまなリソースや仲間を巻き込みながら
- 社会をより良くするための思考・行動ができる人のあり方





## アントレプレナーシップの発揮先

- 起業
  - スタートアップ
  - NPO
  - 地域ビジネス
  - 士業
- 社内起業（新規事業など）
- 課題解決に寄与できる市民として

アントレプレナーシップ教育を  
どのように提供するか

# アントレプレナーシップ教育の全体像

【未来社会像】  
多様な価値を認め“Well-being”を達成するためのよりよい社会  
一つの固定されたものではなく、常に考え続けていかなければならないもの

【目指す人材】  
急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神  
(アントレプレナーシップ)を備えた人材の創出

研究成果の活用も含め、スタートアップやスモールビジネス、  
地域特有課題の解決など、創造したい未来・解決したい課題に応じ、  
実際に事業を進めていくにあたり必要な様々な専門知識や機会を提供

既存組織    スタートアップ    スモールビジネス

未来創造や課題解決のために必要な汎用知識やスキルを  
提供すると共に、それらを活用し、  
実現に向けた仮説検証ができる場や機会を提供

社会に存在する課題を自分事として捉える  
課題の発見力や共感力を育むことを入口に、  
不確実性の高い環境下でも自身の持つ資源を超えて機会を追求し未来創造や  
課題解決に向けた行動を起こしていくための精神と態度を学ぶ場や機会を提供

## ■各専攻分野を通じて培う学士力

- (中央教育審議会答申)  
(1) 知識・理解 (2) 応用的基礎 (3) 態度・志向性、  
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

## ■「生きる力、学びのその先へ」

- 〔文科省 学習指導要領〕  
・学ぶことと人生や社会に生かすこと (学びに向かう力) など  
・実際の社会や生活で生きて働く (知識及び技能)  
・未知の状況にも対応できる (思考力、判断力、表現力)

## ■ Education2030

### 「変革を起こす力のある

### コンピテンシー」(OECD)

- ・新たな価値を創造する力
- ・対立やシシマを克服する力
- ・責任ある行動をとる力

※スモールビジネスにはNPOなども含む

## アントレプレナーシップの発揮

社会実践段階

コンピテンシーの形成段階

動機付け・意識醸成段階

アントレプレナーシップの醸成

アントレ教育に関わらず、  
大学卒業までに  
広く身に着けるべき能力

醸成と発揮を  
小さな一歩でも  
セットでおこなう



アントレ活動の  
「面白さ」  
「苦勞のしどころ」  
を体感

出典：文部科学省令和3年度科学技術人材育成推進計画第1分科  
「特許的・実証的アントレプレナーシップ教育の展開」に向けた  
数高ネットワークや基盤的取組プログラム等のプラットフォーム  
形成に係る調査・分析調査報告書

## アントレプレナーシップ教育の形態



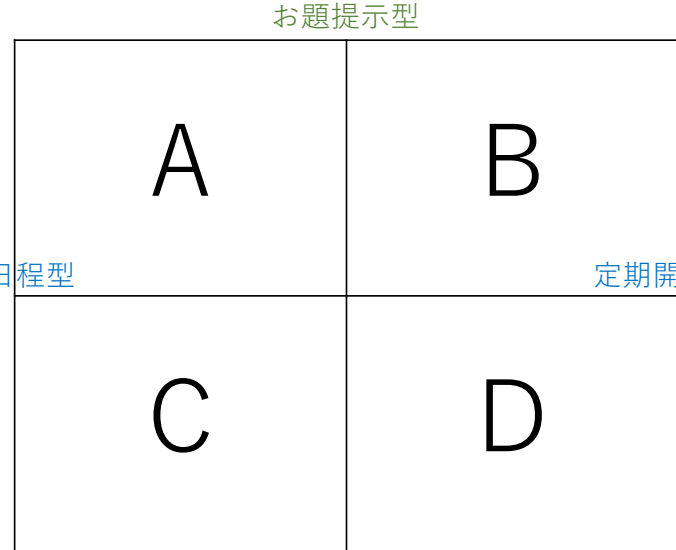
醸成と発揮を  
小さな一歩でも  
セットでおこなう



アントレ活動の  
「面白さ」  
「苦勞のしどころ」  
を体感

集中日程型

定期開催型



+ 開催地の選定  
学校 / 研修地への渡航 など

出典：文部科学省令和3年度科学技術人材育成等強化事業「持続的・発展的アントレプレナーシップ教育の高度化に向けた数値ベースワークや基礎的研修プログラムのプラットフォーム形成に関する調査・分析調査報告書

# 再現性のあるプログラムの枠組み

## - 「10のP」フレームワーク

より根源的な（内的な）事項からスタートし、対外的な発表に至るまでのプロセスを定式化しました。

	Keyword	Key Question
↑ うまくいかないと思ったら、一つ上に戻って考え直してみる ↓ 基本的な授業の進行は上から下	 Passion (情熱)	自分の感情が強く動かされる物事は何か？（ポジティブあるいはネガティブ）
	 Problem (問題)	どんな理想と現実のギャップがあるか？どんなシーンで特にそう思うか？
	 Party (仲間)	誰とその問題に取り組むか？どんな強みや特性を持ち寄っているか？
	 Persona (ペルソナ)	問題の渦中で苦しんでいるのはどんな人か？
	 Pain (困りごと)	ペルソナが特に抱えている困りごとは何か？具体的にそれはいつ起きるか？
	 Product (プロダクト)	困りごとを解決するにはどんなアイデアがあり得るか？
	 Process (プロセス)	ペルソナとプロダクトはいつ出会うのか？どんなふうにならぬのか？
	 Prototype (試作品)	プロダクトを目で見えるかたちで表現するとどんなふうになるか？
	 Profit (収益モデル)	売上をどう立てるか？継続的に運営するためのコストはどのくらいか？
	 Pitch (短時間プレゼンテーション)	限られた時間で相手を動かすために、何をどんなふう伝えるか？

# 学校のカリキュラムや、集中日程に適用可能な教材

教案（先生向け）

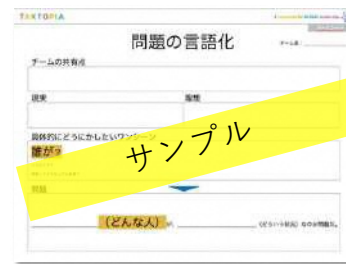


全13回  
(50分 x 2コマ/回)

進行用スライド



ワークシート



レクチャー動画



全26本

キーワード表彰状



全16パターン

# 事例1: Project: LEAP (佼成学園高等学校グローバルコース)

## 通年型 + 渡航型の組み合わせによる2カ年連続カリキュラム



A	B
C	D

- 校内でアントレプレナーシップを实践的に学ぶ課程と、校外に力試しに行く（大会出場や実際の起業）の両面を実施
- 最終ステージでは海外研修にて、ボストンの起業コミュニティに向かって実践してきた事業についてプレゼンをおこなう



## 事例2: かわさきベンチャースクール (川崎市、小中生向け) 集中日程型の地域スクール



A	B
C	D



- 川崎市の特性でありビジョンでもある**イノベーションシティ**に寄与する若者を育成するためのプログラム
- 川崎市の**ハイテク・ものづくり企業との連携**
- 参加生徒は自分たちの身の回りで感じている課題の言語化からスタートし、起業家ゲストの前で**商品アイデア**をプレゼン
- 佼成学園とは合同発表会も実施

# 事例3: 探究キャンプ まちづくり編 (土佐町、小中生向け)

オンライン+集中日程型で、都市部と土佐町の子どもたちが一緒に学ぶ場



A	B
C	D

- 「まち」の学習を通じて、自分たちが**住みたいまちを発想**しプレゼンすることが最終ゴール
- 建築家や海外に住む方をゲストに呼んで、まちの**当たり前**を越えて、自分たちでまちを作っていけるという**主体性**を醸成
- 集中日程では実際に都市部の子どもが土佐町に訪れ、一緒に過ごしながら「将来住みたいまち」の模型を制作

# 京丹後市をベースに考えた場合

## 強み・活かせるリソース

- 伝統的産業、あるいは復興が予想される産業がある
- 専門科のある高校
- グローバルやデザイン思考等のプログラムで育まれている素地

## 課題

- 地理的な制約→オンラインとのハイブリッド開催 / 遠隔地との連携
- 地域プレイヤーの持続可能な巻き込みの体制づくり→オープンスクールのような、共通言語を学び共感を醸成する場作り
- 成果指標の設定と、回収スパンの定義→参考事例を後述

ご参考：教育効果の例

# 教育効果の再現性を科学的に検証

ヨーロッパ委員会アントレプレナーシップ教育評価指標<sup>※</sup>に準拠して開発したアンケートを用いて、受講生のコンピテンシーを測定。因子分析、反復測定による分散分析、プロファイル分析などの高度な統計手法を用いて、プログラムの受講前後における教育効果を検証しています。

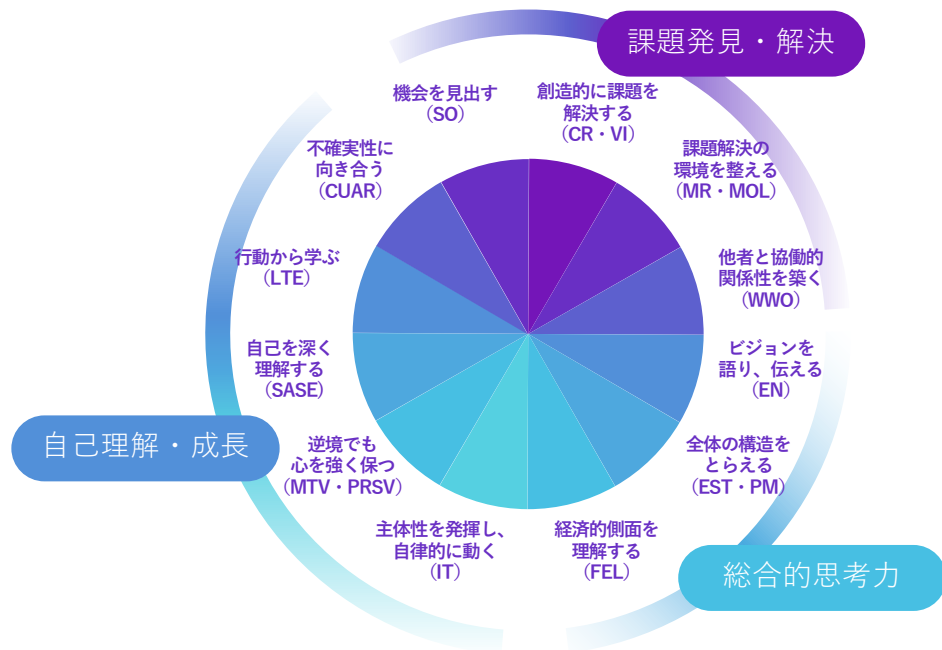
過去三年間、約800名の受講生のデータを分析したところ、研修期間や実施形態などプログラムの特徴によって傾向は異なる（伸長率平均値=6.1%、最大値=10.2%、最小値=1.9%）ものの、全体として12のコンピテンシー項目すべてに統計的に有意な伸長がみられることが確認されています。

プログラムの前後での伸びが特に大きい項目としては、主体的に社会課題を見出す能力（“機会を見出す”）、自分の強み・弱みと目標を言語化する力（“自己を深く理解する”）、創造的に解決策を構築する能力（“創造的に課題を解決する”）、そして、自らの構想と目指したい方向性をコミュニケーションする力（“ビジョンを語り、伝える”）が挙げられます。

監修：松永正樹（L-Lab代表、Ph.D. in Communication Arts & Sciences (Pennsylvania State Univ.)）

※ European Commission/EACEA/Eurydice. (2016). Entrepreneurship Education at School in Europe: Eurydice Report. Luxembourg: Publications Office of the European Union

# アントレプレナーシップに関わる12のコンピテンシー



(c) TAKTOPIA & Co.

## 「本当に、アントレプレナーシップを教育で伸ばせるんですか？」

プログラムの受講前後を比較すると、すべての項目でスコアが伸びており、その多くは偏差値に換算すると10ポイント以上の伸びが認められました（下表参照）。

コンピテンシー項目	受講前後の伸長
課題発見・解決	4.43 → 4.74 = <b>0.31 ★</b>
機会を見出す	4.42 → 4.85 = <b>0.43 ★</b>
創造的に課題を解決する	4.53 → 4.88 = <b>0.35 ★</b>
課題解決の環境を整える	4.21 → 4.47 = <b>0.26 ★</b>
他者と協働的關係性を築く	4.69 → 4.88 = <b>0.19</b>
自己理解・成長	4.78 → 5.02 = <b>0.24 ★</b>
不確実性に向き合う	4.83 → 5.04 = <b>0.21</b>
行動から学ぶ	5.28 → 5.51 = <b>0.23</b>
自己を深く理解する	4.62 → 5.00 = <b>0.38 ★</b>
逆境でも心を強く保つ	4.62 → 4.86 = <b>0.24 ★</b>
主体性を発揮し、自律的に動く	4.73 → 4.83 = <b>0.10</b>
総合的思考力	4.35 → 4.63 = <b>0.28 ★</b>
ビジョンを語り、伝える	4.56 → 4.92 = <b>0.36 ★</b>
全体の構造をとらえる	4.35 → 4.63 = <b>0.28 ★</b>
経済的側面を理解する	3.94 → 4.05 = <b>0.11</b>

★ = 偏差値換算で10pts以上の伸長が認められた項目